

# 注 意 報

農技セ第5504号  
令和3年7月16日

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

令和3年度農作物病害虫発生予察情報について

令和3年度農作物病害虫発生予察注意報第1号を發表したので送付します。

## 令和3年度病害虫発生予察注意報第1号

令和3年7月16日  
徳 島 県

サツマイモ栽培地帯において、7月第1半旬から第2半旬のフェロモントラップ定点調査で、シロイチモジヨトウの誘殺数が平年に比べて多く推移していることから、今後、サツマイモにおける本虫による被害の拡大が懸念されるため、注意報を發令します。現地圃場においては発生状況に注意し、適切な防除指導をお願いいたします。

作物名：サツマイモ  
病害虫名：シロイチモジヨトウ

- 1.発生地域 県北東部のサツマイモ栽培地帯
- 2.発生時期 7月中旬～
- 3.発生程度 多(前年よりやや多い、平年より多い)

#### 4.注意報發令の根拠

- (1)鳴門市、松茂町及び徳島市のサツマイモ栽培地帯に設置したフェロモントラップ定点4か所の調査では、平年は7月第3半旬から増加する傾向であるが、本年は、7月第1半旬より誘殺数が急激に増加し、第1半旬から第2半旬の誘殺数が587頭と、平年(133頭)の約4.4倍となった(図1)。
- (2)7月12、13日に実施したサツマイモ現地16圃場の巡回調査では、シロイチモジヨトウの発生圃場率が18.8%、25株当たり寄生幼虫数が0.4頭と、平年(11.8%、0.3頭)に比べてやや高い。なお、食葉性害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、ナカジロシタバ等)による被害発生圃場率は100%と、平年(95.6%)に比べてやや高い。
- (3)高松地方气象台が7月15日に發表した1か月予報では、気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、平年と同様に晴れの日が多いが、期間の前半は、平年に比べて曇りや雨の日が多いと予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

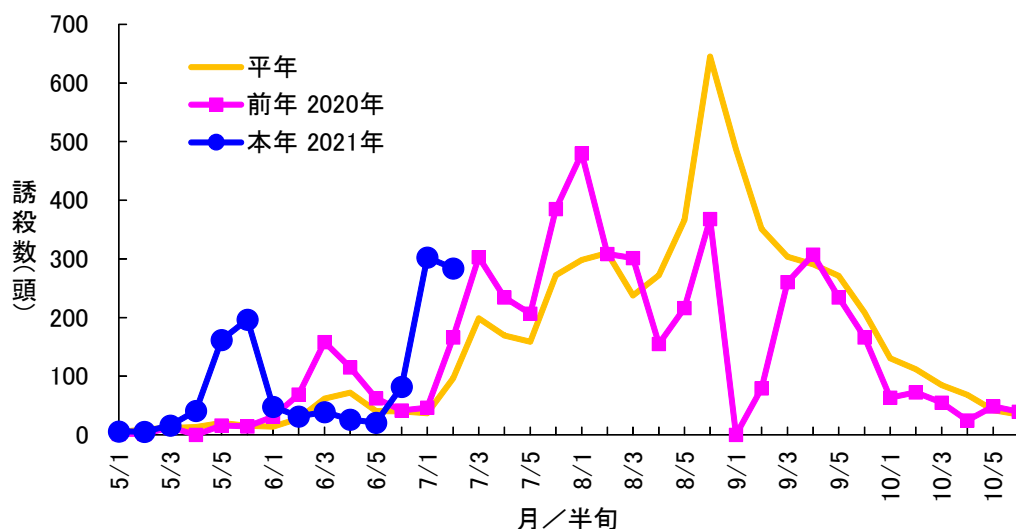


図1 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移(サツマイモ圃場)  
\* 徳島市,鳴門市,松茂町の4地点平均

## 5. 生態及び被害作物等

### (1) 生態

年間の発生回数は5～6回。幼虫の発生量は8～9月に最も多くなる。25℃での各生育ステージの期間は、卵が3日、幼虫が17日、蛹が9日で、1世代に要する期間は約30日程度である。

### (2) 寄主植物

広食性で、サツマイモ、ダイズ、アブラナ科野菜など50種類以上の植物を加害する。

### (3) 被害状況

幼虫が葉裏から表皮を残してかじり、白変葉になる。孵化後の幼虫は集団で葉裏を食害するが、成長に伴い分散、食害量も増加し、被害が拡大する。



図2 シロイチモジヨトウ卵塊



図3 シロイチモジヨトウ幼虫



図4 シロイチモジヨトウ成虫

## 6. 防除法等

(1) 中・老齢幼虫には薬剤の効果が低くなるので、若齢幼虫期に防除する(表1)。

(2) 卵塊や分散する前の若齢幼虫を発見したら、速やかに捕殺する。

(3) 防除等の詳細については、徳島県植物防疫指針を参照するとともに、薬剤の使用に当たっては、必ず農薬ラベルの記載事項を遵守する。

表1 サツマイモ(かんしょ)でシロイチモジヨトウに登録のある農薬(登録内容:2021年7月16日現在)

農薬の名称	希釈倍数	使用時期	使用回数	系統	IRACコード*
アフーム乳剤	1000~2000倍	収穫7日前まで	3回以内	マクロライド系	6

※IRACコード

殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のこと。本コードが異なる薬剤を使用することで、同一系統の薬剤の連用を防ぐことが可能である。